

江差高校吹奏楽部が夢の舞台で演奏

江差高校の吹奏楽部が、9月3日に行われた第55回北海道吹奏楽コンクールの高等学校C編成の部で金賞を獲得し、北海道代表として、10月9日・10日、東京の「府中の森芸術劇場」で開催された第10回東日本学校吹奏楽大会に出場しました。（銅賞受賞）

全国レベルの大会への出場は、創部以来初の快挙で、夢の舞台での演奏を終えての感想を、部長の上野絢菜さん（3年）に聞きました。

■全道大会・東日本大会の出場を終えての感想は。

今回、このような大きな

コンクールで演奏する機会をもらえて良かったです。スケジュールとしては忙しかったけれど、部員21人でやりきってとても満足しています。

■吹奏楽を始めたきっかけは何ですか。

元々音楽に興味があったことと、親戚で吹奏

楽をやっている人がいたのがきっかけで、中学校から吹奏楽を続けています。

■吹奏楽を始めて自分の何が変わったと思いますか。

楽器を大事にする気持ちと、吹奏楽は全員で演奏するものなので、演奏の技術だけでなく、人間関係も大切にする気持ちが持てました。

■指導する大碓先生おおすけはどんな方ですか。

親身になって教えてくださり、

また、怒るときはしっかりと怒ってくれる先生です。私達部員もメリハリを持って練習できています。

■週にどのくらい、どんな練習をしていますか。

平日は放課後から18時半まで、土日は9時から15時まで練習しています。内容は、生徒だけのトレーニングや、合奏、パート練習、セクション練習など色々な練習をしています。

■尊敬する演奏家はいますか。

特にこの人といった演奏家はいませんが、札幌や江別から教える指揮者の方やクラリネットの先生にはお世話になっていますし、尊敬しています。

■好きな曲があれば理由も合わせて教えてください。

好きな曲はたくさんありますが、コンクールで演奏した「恋は魔術師」という曲が好きです。この曲は、前半はゆったり南国

的な雰囲気なのですが、後半は印象が変わってメリハリの効いた雰囲気になります。

■この先演奏してみたい曲はありますか。

私はゆったりした曲が好きなのでそういった曲をもっと演奏してみたいです。それと、演奏している中で一人ひとりが引き立つような曲や、聴いて下さる方が強くなれるような曲も演奏したいです。

■あなたにとって吹奏楽とはなんですか。

言葉に表すのは難しいですが、吹奏楽は今の自分を作ってくれた大事なものです。

■この先も吹奏楽を続けていくと思いますか。また、将来の夢は何ですか。

機会があれば今後も続けていきたいです。将来は、まだ未定ですが、英語関係の学校に進学したいと思っています。



■現在3年生ですが、後輩の皆さんに伝えたいことは。

3年生は部員21人中10名ということで、私達が引退すれば人数が減ってしまいましたが、今までの吹奏楽部の歴史を受け継いで、まずは部員を増やす努力をしてほしいです。人数が少なくてもそれがハンデになることはないと思うので、これからも

みんなで協力して頑張っていってほしいです。

■最後に一言どうぞ。

今回結果を残すことが出来たのは、地域の方々の支えのおかげだと思っています。これから頑張っていきますのでよろしくお願いします。

顧問の大裕正典先生から

今回このような結果を出せたのは、創部以来の積み重ねの結果で、OB・OGの支えもあったからこそだと思っています。

現在の中学生の皆さんが、江差高校に入学したときには、ぜひ一緒に演奏したいと考えています。また、江差高校では吹奏楽部だけでなく、他の生徒もそれぞれの分野で頑張っています。

地域の皆さんには、今後も変わらず支援をお願いします。

江差らしい景観づくり

町有遊休地を「一休み公園」に

江差小児童が参加してポケットパークを整備

街並みや景観資源の価値を共有し、地域主導の景観形成を推進することを目的に、北海道建築士会檜山支部を中心に平成21年度に設置された「檜山景観プラットフォーム」が進めていたポケットパーク（小公園）づくりが、10月5日、本町の町有遊休地（江差保健所斜め向）で行われました。

ポケットパークづくりには、6月から「檜山景観プラットフォーム」が実施してきた「江差景観づくりワークショップ」で、江差の歴史ある街並みや風景を学びながら、江差らしい休みどころをつくろうと、いろいろと構想を練ってきた江差小学校の6年生19名も参加し整備にあたりました。



子ども達は、建築士会の会員や北海道工業大学の谷口准教授などの指導を受けながら、木製テーブルの組み立てから、テーブルと丸太イスに事前に下書きした「江差」をイメージしたカモメや瓶子岩、日本海に沈む夕日などをイメージした絵をなぞって木に写し、ペンキを使ってきれいに色付けを施し仕上げました。また、カモメの形をした花壇への植栽と敷地にシンボルツリー（グミの木）の植栽も行い、最後に、子どもたちが命名した手製の「一休み公園」の看板を取り付け、憩いの空間「休みどころ」の整備に汗を流しました。子どもたちは、「多くの人に利用してもらい、親しまれる空間になってほしい」と話していました。

